

『北阪昌人のラジオドラマ脚本入門セミナー』 レジюме

6, 構成について①

(テキスト P 70～P 85)

構成とは、数学、因数分解と言われますが、理系じゃないから苦手と

思わずに！

構成とは、トランプの神経衰弱。前に出したカードと同じカードをひいて、

最後はテーブルの上が綺麗になる（伏線を回収し終える）。

構成とは、設計図。きちんと家を建てるためのガッチリした骨組みを決める。

ラジオドラマの構成のポイントは、

a、シーン数を多くしない、回想をなるべく使わない。

映像ドラマと違い、音声ドラマでは、聴いているひとが、ある世界観に没入する

までに時間を要します。せっかくその世界に心を委ねた途端、過去に飛んだり、

舞台が変わったりすると、集中力がそがれてしまいます。

b、冒頭シーンの検証

ラジオドラマは、視覚がない分、飽きられやすい。つかみは、重要です。

ほんとうにこの始まりで、いいのか。検証が肝要です。

c、伏線回収は、なるべく時間を置かずに。

映像と違い、伏線を成立させるためには、リスナーの記憶のあるうちに。